

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(就労支援

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後に活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ・就労支援希望者が来た際に、何かしらのアクションが取れるようになる。
- ・就労支援の制度を理解するために外部の勉強会へ積極的に参加していく。

●構造 structure

【メンバー】

通所チーム 2名(PT1名、ST1名) 訪問チーム1名(PT)

【活動】

月1回 40分程度

【内容】

- ・就労支援の制度を理解するために外部の勉強会への参加などに参加していく。
- ・就労支援希望者を担当している場合は勉強会を踏まえて、今後の方向性をメンバーで検討し2月の勉強会への症例検討をしていく。

●過程 process

- ・参加した勉強会を元にしてディスカッションをする。

「就労支援における制度と社会資源」

「復職と再就職のプロセス」

「高次機能障害の就労支援」

「若年性認知症の就労支援」

「企業について」

- ・訪問で担当している2名を勉強会で学んだ事を元に検討していく。

●結果 outcome

- ・2月の勉強会にて2症例を発表、検討する事が出来た。

- ・今回就労支援を勉強する事で利用者様への提案が出来る部分があった。

復職に対して

リハビリの進捗状況にもよるが、復職希望者の会社にはリハビリ出勤時の同行に許可をいただく事も出来ている。

再就職に対して

一般就労のみ考えていたが、就職支援B型などを提案する事が出来た。

《次年度持ち越し課題》

- ・就労支援希望者が来た際のケアマネとの連携や相談窓口などの検討(フローチャートの作成)
- ・令和6年障害福祉制度改定に伴う制度の理解